

事業報告

事業名	やまぐちキッズスクール 第2回
日時・場所	7月3日(日)
参加者数	18組 55名(保護者24名、子ども31名)

1 概要

多彩な体験活動プログラムを通して、生命や自然を大切にする心や好奇心、探求心や創造力を高めるとともに、そこで感じたことや考えの表現・共有を通して、他者を理解し、互いを尊重し合う気持ちを育むことを目的とする、全4回の通年事業。対象は県内の幼児・小学生およびその保護者。5月29日に第1回目を実施した。

(1) 午前：「廃木材で秘密基地づくり」

幼児から大人まですべての方を対象に地球環境問題の大切さについてゲームを用いて楽しくわかりやすく伝える活動をされている、環境まなび研究所のみなさんを講師に迎え実施した。

参加者は、3つの子どもグループと1つの保護者グループの計4グループに分かれて秘密基地づくりに取り組んだ。傷や欠けがあることから「かまぼこ板になれなかったかまぼこ板」を、一枚ずつ積み重ねる作業には子どもも大人も集中して取り組んでいた。子どもたちが「かまぼこ板を積み重ねる役割」「かまぼこ板を箱から取り出して運ぶ役割」「積み重なったかまぼこ板を整える役割」に自然と分かれていたことや、「倒れないようにみんな気を付けて！」などと周りへの呼びかけが発生したなど、グループで一つの秘密基地を作るという目的達成に向けて協力していた姿が印象的だった。

(2) 午後：「偏光板のふしぎ（科学実験）」

東京理科大学の川村康文氏、小林尚美氏を講師に迎え実施した。

まず「ブラックウォール」という本当は存在しない壁がまるで実在するように見える科学マジックに取り組んだ。幼児には作業が難しい場面もあったが、小学生の参加者が手助けをしながら全員が科学のふしぎを楽しむことができた。科学実験「偏光板のふしぎ」では、それぞれが同じものを作っている、セロテープの貼り方によって見え方が異なるため、互いに完成品を見せ合う姿や、大学生ボランティアに熱心に説明している姿が見られた。

最後には、数人の参加者に自分の作品をみんなに向けて紹介してもらった。また、感想を言う場面では多くの子が手を挙げて発表し、どんなことが面白かったか、難しかったかなど感じたことを伝え合うことができた。

途中一時間、保護者は絵本をツールに「子どもとの関わり合い」をテーマとした保護者セミナーを受講した。閉会后、講師が用意した様々な絵本を親子で見ている姿を見られた。

2 写真



